



能登町観光・地域交流センター コンセールのと

のと鉄道の宇出津駅が廃止され、駅前広場はかつての賑わいを失ってしまった。能登町はバスターミナルとして広場の整備と観光の交流拠点とすべく旧宇出津駅跡地の拠点整備と併せて当施設を計画した。

観光・地域交流センター「コンセールのと」と命名した建物は社会教育、観光情報発信、交通拠点としての機能を複合的に持つ施設で、規模は約2,000m²、2階建、柱に能登ヒバの集成材を使用するなど地場産材をふんだんに取り入れた県内でも珍しい大規模木造建築である。

配置計画は旧鉄道線路敷を軸線としたトンネルから続く「鉄道広場」を宇出津駅の名残りとして留め、建物内の吹抜け空間を経由し、前庭のシンボルツリーへと繋がる。前庭部分には町木「もの木」をシンボルツリーとして配置した。

また、多雨多雪の気候に配慮し周囲をキャノピーで囲い利用者の安全性を確保している。建物内中央に位置する吹抜け空間のライトコートは前庭と背面の「鉄道広場」をつなぐ核となる空間と位置づけ、過去と現在、未来への繋がり空間を演出している。

外観は周辺景観を活かし、宇出津港の馬蹄形をモチーフとして、前庭をキャノピーで囲い込むようにしている。

宇出津の街並は路地風景が特徴的である。緩やかに曲がる通り沿いには平入の瓦屋根や軒下空間を見ることができる。伝統的な素材と通り景観を継承するため、建物全体は緩やかな曲線とし、瓦屋根や軒下空間が連なる街並み、緑豊かな山並みに調和するよう全体の大屋根は黒瓦を用いている。

内部は、1階に観光情報案内や特産品販売、飲食エリアを備えた「のと観光情報ステーション たびスタ」を配置したほか、約6万8千冊を所蔵する中央図書館、バス待合室、24時間利用可能公衆トイレを配置し、正面玄関から続くフロアは、明るく開放的な吹抜け空間となっている。2階には、多目的ホールと公民館機能を配置している。また、環境に配慮し、地中熱を利用した換気システム（ヒートトレンチ）、雨水の一部をトイレの洗浄水として有効活用するシステムを導入屋根には太陽光パネルも設置し、施設や広場、駐車場の照明は、LED照明を数多く採用して省エネに貢献している。

旧駅前広場に建つ新しい交流施設、つまり過去と未来をつなぐこの施設は、人が集う場所として、潤い空間の新しいシンボルとなっている。

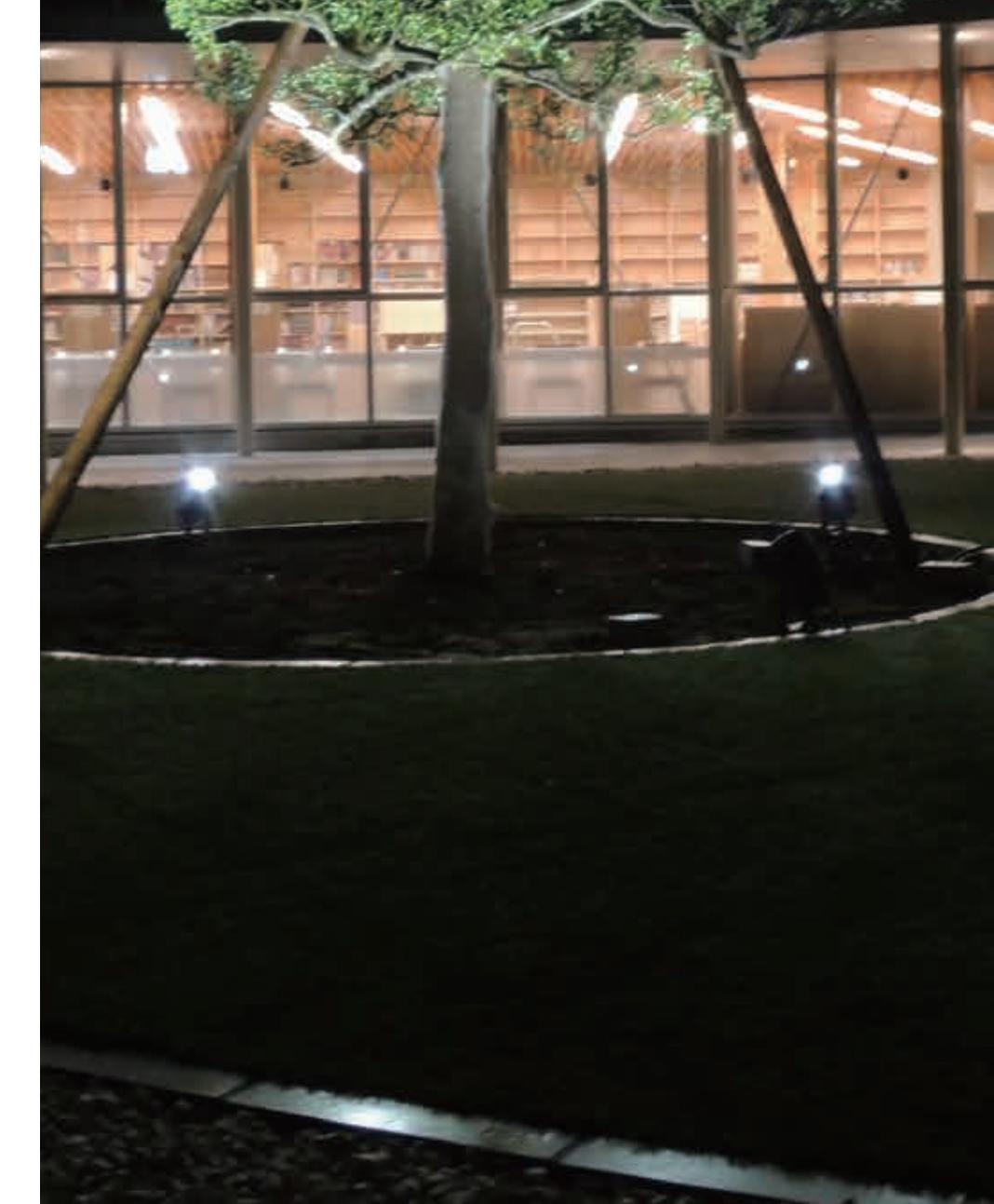
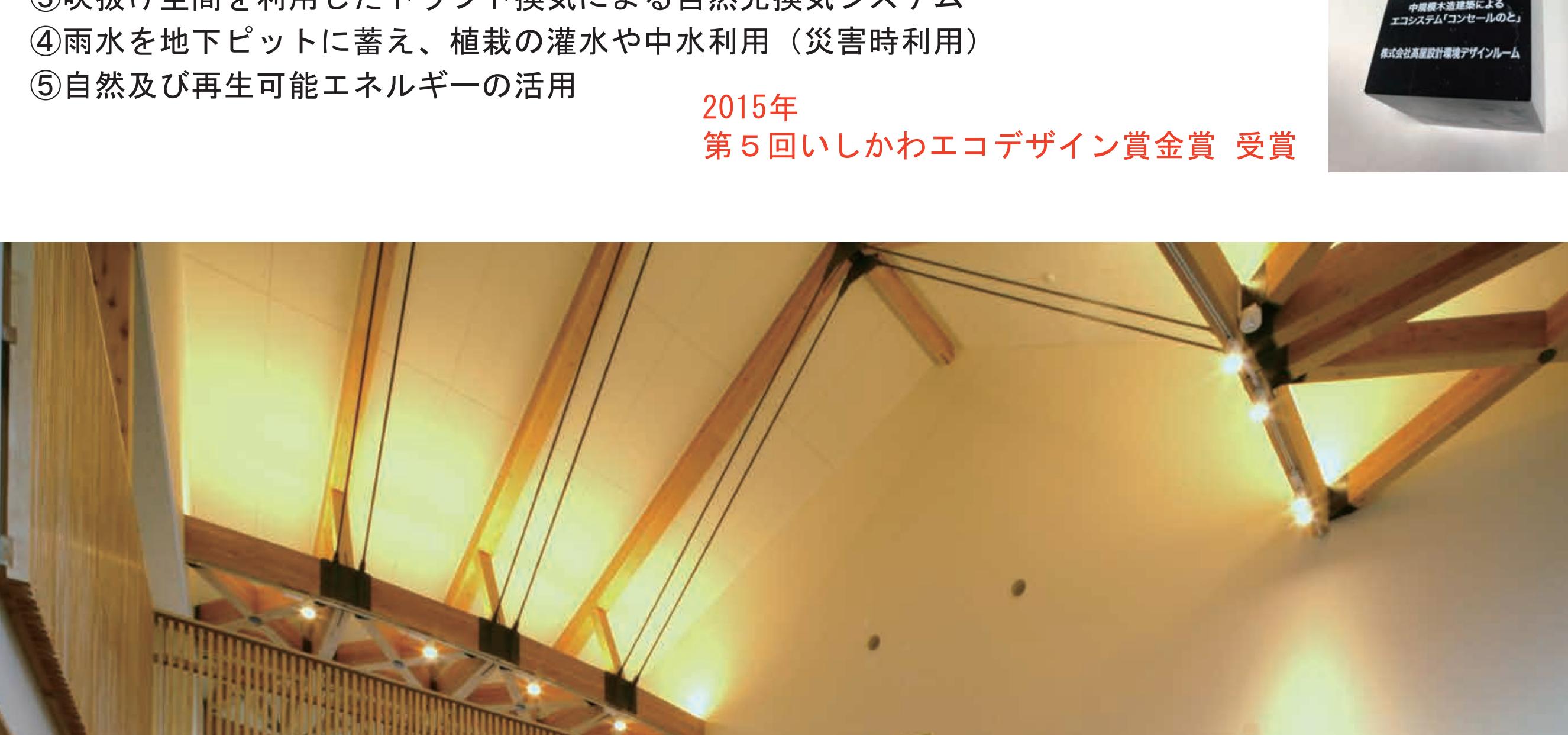
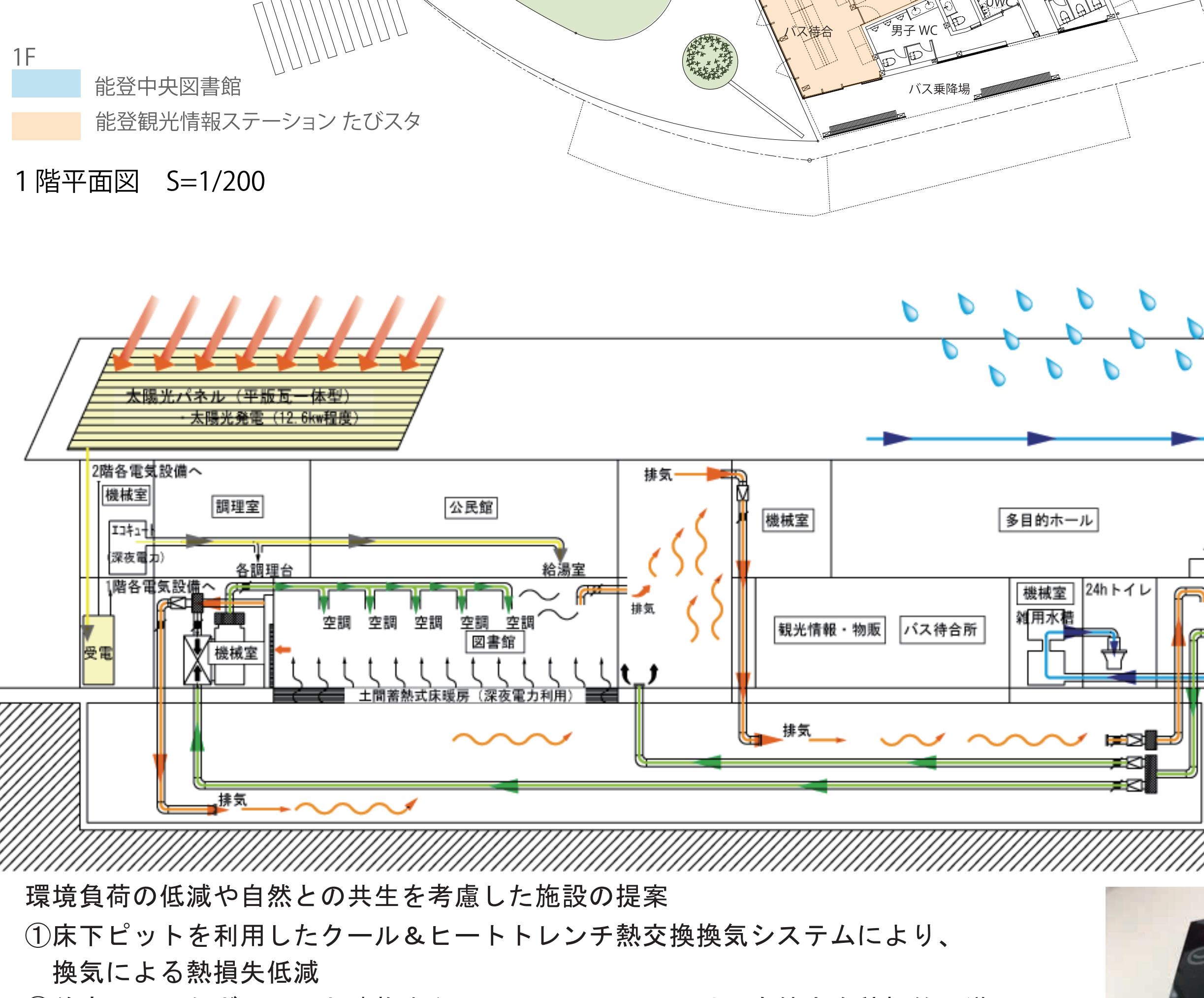
所在地：石川県鳳珠郡能登町字宇出津ト字 29-2

建築主：能登町 用途：集会場

構造規模：木造 地上2階建て

敷地面積：2049.9m² 延べ床面積：1996.6m²

竣工：2014年3月



コンセールのと

環境負荷の低減や自然との共生を考慮した施設の提案

①床下ピットを利用したクール&ヒートトレンチ熱交換換気システムにより、換気による熱損失低減

②前庭に面したガラス面と建物中心のライトコートにより、自然光を積極的に導入

③吹抜け空間を利用したドラフト換気による自然光換気システム

④雨水を地下ピットに蓄え、植栽の灌水や中水利用（災害時利用）

⑤自然及び再生可能エネルギーの活用

2015年 第5回いしかわエコデザイン賞金賞 受賞

構造計画

軸組工法による2階建ての木質大断面構造で設計された複合施設は、緩やかに湾曲した平面の中央入口のライトコートを境に構造スペパンが異なり、瓦屋根と多雪荷重は過酷な設計条件となった。

構造部材には、地場産材を活用、高い材料強度を確保し、躯体の部位に応じて梁とブレースを米松集成材、柱を能登ヒバ集成材、小梁には、欧州赤松を使い性能とコストを指標に材料を使い分けた。